

都市再生整備計画

たなぐらまち れきし じゅうてん ち く
棚倉町歴史まちづくり重点地区

ふくしまけん たなぐらまち
福島県 棚倉町

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☒
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☐

都道府県名	福島県	市町村名	たなぐらまち 棚倉町	地区名	たなぐらまちれきしまちづくりじゆうてんちく 棚倉町歴史まちづくり重点地区	面積	18.7	ha
計画期間	令和	7	年度	～	令和	9	年度	
交付期間	令和	7	年度	～	令和	9	年度	

目標
大目標:町を代表する史跡周辺の交流拠点整備と周遊促進による地域の活性化 目標1:観光交流拠点の整備による利便性の向上と賑わいの創出 目標2:周遊性向上による交流人口の創出と地域経済の活性化 目標3:来訪者との交流による地域住民の郷土愛護の醸成と地域生活の質の向上
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 棚倉町は福島県の中通り南部に位置し、東に鮫川村・浅川町、西は栃木県那須町・大田原市、南は塙町・矢祭町・茨城県大子町、北は白河市と接しており、面積は159.93km2、人口は約13,000人の町です。世界的に魅力的な都市が多い北緯37度に位置する棚倉町は、清涼さわやかな気象状況にあり、冬は温暖で四季を通じて極めて住みよい自然環境を有しています。その環境もあってか、1万年以上も前に人々が生活を営んでいたことが出土品から判明しており、それ以降も時代ごとの営みがわかる文化財、史料等が多く残されています。特に江戸時代には棚倉城が築城され、政治・経済・文化の中心地・交通の要所として栄えました。現在、棚倉城跡は国の史跡に指定(平成31年)されています。 棚倉町歴史まちづくり重点地区(以下、「当地区」という。)は、町の中心部に位置し、当地区の周辺には磐城棚倉駅があり、JR水郡線やJRバス白棚線などが通じているほか、都市計画区域の商業区域が設定されており、多種多様な事業所が軒を連ねています。当地区の「赤館城跡」をはじめ、町を代表する史跡「棚倉城跡」や本殿が国指定重要文化財となっている「馬場都々古別神社」など当地区の周辺には多くの神社仏閣が点在しており、交通や経済、歴史・文化など多くの分野において町の中心地となっています。平成16年度から平成20年度にかけては旧まちづくり交付金を活用し、棚倉城跡周辺の整備(多目的広場整備事業、駐車場整備事業、街路灯整備事業)や城下道路整備を行っています。箇所によっては整備から15年以上が経過し、経年劣化により景観が損なわれており、再整備が急務となっています。 「棚倉町第6次振興計画(平成27年度～平成36年度)」(平成27年)では、「住民が主役のまち」「安心で優しいまち」「誇りと愛着のもてるまち」を基本理念として、豊かな自然環境と豊富な歴史や文化的資源の活用を図り、観光資源の整備と資源周辺の環境整備に取り組むことで棚倉町を魅力ある観光地にすることを主要施策の一つとしています。また、「第2期棚倉町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和2年)では人を引き付ける魅力あるまちを基本目標の一つに掲げ、棚倉藩の城下町として栄えた「個性」ある歴史や文化資源を活かして、観光誘客や商業活性化を目指したまちづくりを官民協働で推進することとしています。これらの方針に基づき、棚倉町歴史的風致維持向上計画を策定(令和2年)し、歴史的風致を生かした観光振興に取り組むため、歴史的建造物の保存支援事業や城下道路整備事業、観光拠点施設整備事業を推進することとしています。
課題
・城下町の周遊拠点となる観光案内施設がない ・赤館城跡は棚倉城下町を一望できる丘にあるが、展望台等の整備がされていない等、来訪者の受け入れ体制が整備されていない ・歴史的建造物などを効率的に周遊できるルートが構築されていない ・来訪者との交流が少ないため、地域住民の郷土愛護が育まらない
将来ビジョン(中長期) ①棚倉町第6次振興計画(2015～2024)(平成26年度策定) ・既存の観光資源の整備を進めるとともに、新たな観光資源を発掘し、活用することで、魅力的な観光地づくりを推進する ・町内に点在する歴史・文化遺産を観光資源として有効活用し、その資源のネットワーク化を図り観光客の周遊性を高める ・観光施設やそれに携わる人が、観光客をあたたく迎え入れる環境づくりを形成する ・住民の交流拠点となる地域施設の整備や改修を支援する ・郷土愛を育むため、町の歴史や郷土文化について学ぶ機会を創出する ②第2期棚倉町まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020～2025)(令和元年度策定) ・自然、歴史、文化資源を活用した交流人口、関係人口の拡大 ・シティプロモーションの取り組み推進 ③棚倉町歴史的風致維持向上計画(2020～2029)(令和2年度策定) 歴史的風致を生かした観光振興 棚倉城跡周辺道路整備事業、棚倉城下道路整備事業、馬場都々古別神社門前環境整備事業、棚倉城跡観光拠点施設整備事業、ARアプリ整備事業、赤館公園整備事業、周遊性向上・案内板等整備事業

都市再生整備計画事業の計画 ※都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金)において、以下の項目が該当する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市のコンパクト化の方針 ※都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金)の施行地区要件において、観光等地域資源活用支援型、又は、産業促進区域支援型(施行地区が市街化区域等外に限る)、又は、防災拠点・郊外支援型を適用する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

第6次棚倉町振興計画において、本町の目指す将来像のひとつとして、豊かな自然を守りながら産業を発展させ、快適で、暮らしやすいまちをつくることを掲げています。

そのため、魅力的な観光ルートの設定など観光客のさらなる利便性向上を図り交流人口の増加を目指すとともに、高齢化の進行による自家用車に代わる新たな交通システムのニーズの高まりを考慮し、まちなかの歩行者や観光交流に資するアクセス性の高い拠点の形成、多くの人が集まり、出会う多世代交流拠点づくりに取り組みます。

なお、当町においては令和2年にウォーカブル推進都市に加入しており、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりに向けた取り組みを推進することとしています。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目 標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目 標 値	目 標 年 度
赤館公園来訪者数	人／年	赤館城跡観光交流センター整備前後の来訪者数	観光交流センターの整備による利便性の向上と賑わいの創出に資する	559人	R5年度	700人	R9年度
歴まちカード配布枚数	枚／年	歴まち認定都市の象徴的な風景写真と歴史まちづくりの情報 報が表裏に記載されたもので、棚倉町役場と棚倉町図書館で配布をしている「歴まちカード」の整備前後の配布枚数	情報板の設置により、町内に点在する仏閣や国指定史跡である棚倉城跡など町の中心部への誘導が図られる。中心部には観光スポットの他、公共施設も集中しており、そこで配布している「歴まちカード」を求める方の増加が想定される。	663枚	R5年度	800枚	R9年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【観光交流センターの整備による利便性の向上と賑わいの創出】 ・来訪者が気軽に利用できるよう観光資源の敷地内に観光拠点として交流センターを整備する。 - また、施設を利用した来訪者が、地区を周遊したくなるようなコンセプトを持った整備を行う。 ・地域住民にも親しみを持てる施設として整備し、地域内外の交流を促進し、賑わいを創出する。	【基幹事業】(高次都市施設)赤館城跡観光交流センター整備事業 【関連事業】棚倉城下道路整備事業 【関連事業】棚倉城跡周辺道路整備事業 【関連事業】馬場都々古別神社門前環境整備事業
【周遊性向上によるさらなる交流人口の創出と地域経済の活性化】 ・観光資源を線でつなぐ周遊ルートを軸として観光案内板の整備を行う。	【基幹事業】(地域生活基盤施設)県道棚倉鮫川線情報板整備事業 【関連事業】ARアプリ整備事業 【関連事業】棚倉城下道路整備事業 【関連事業】棚倉城跡周辺道路整備事業 【関連事業】馬場都々古別神社門前環境整備事業
【来訪者との交流による地域住民の郷土愛護の醸成と地域生活の質の向上】 ・来訪者に地区を一望してもらうことで、飲食業をはじめとした事業所への利用促進を図るため、赤館城跡に展望施設を整備する。	【基幹事業】(高次都市施設)赤館城跡観光交流センター整備事業 【関連事業】ARアプリ整備事業
その他	

交付対象事業費	71	交付限度額	28	国費率	0.393
---------	----	-------	----	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B／C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路															
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設 情報板		県道棚倉鮫川線情報板整備事業	棚倉町	直	2基	9	9	9	9	3.0	3.0	3.0		3.0	
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター	赤館城跡観光交流センター整備事業	棚倉町	直	92㎡	7	8	7	8	68.2	68.2	68.2		68.2	
	まちおこしセンター														
	ワーケーション拠点施設														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
エリア価値向上整備事業															
誘導施設相当施設 医療施設															
	社会福祉施設														
	教育文化施設														
	子育て支援施設														
	元地の管理の適正化														
合計										71.2	71.2	71.2	0.0	71.2	

(金額の単位は百万円)

統合したB／Cを記入してください

統合したB/Cを記入してください

...A

提案事業														
事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分		うち民負担分	交付対象 事業費
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
地域創造 支援事業														
事業活用 調査														
まちづくり活動推進 事業														
合計									0	0	0	0	0	0
												合計(A+B)	71.2	

合計(A+B)	71.2
---------	------

(参考) 関連事業

[illegible]

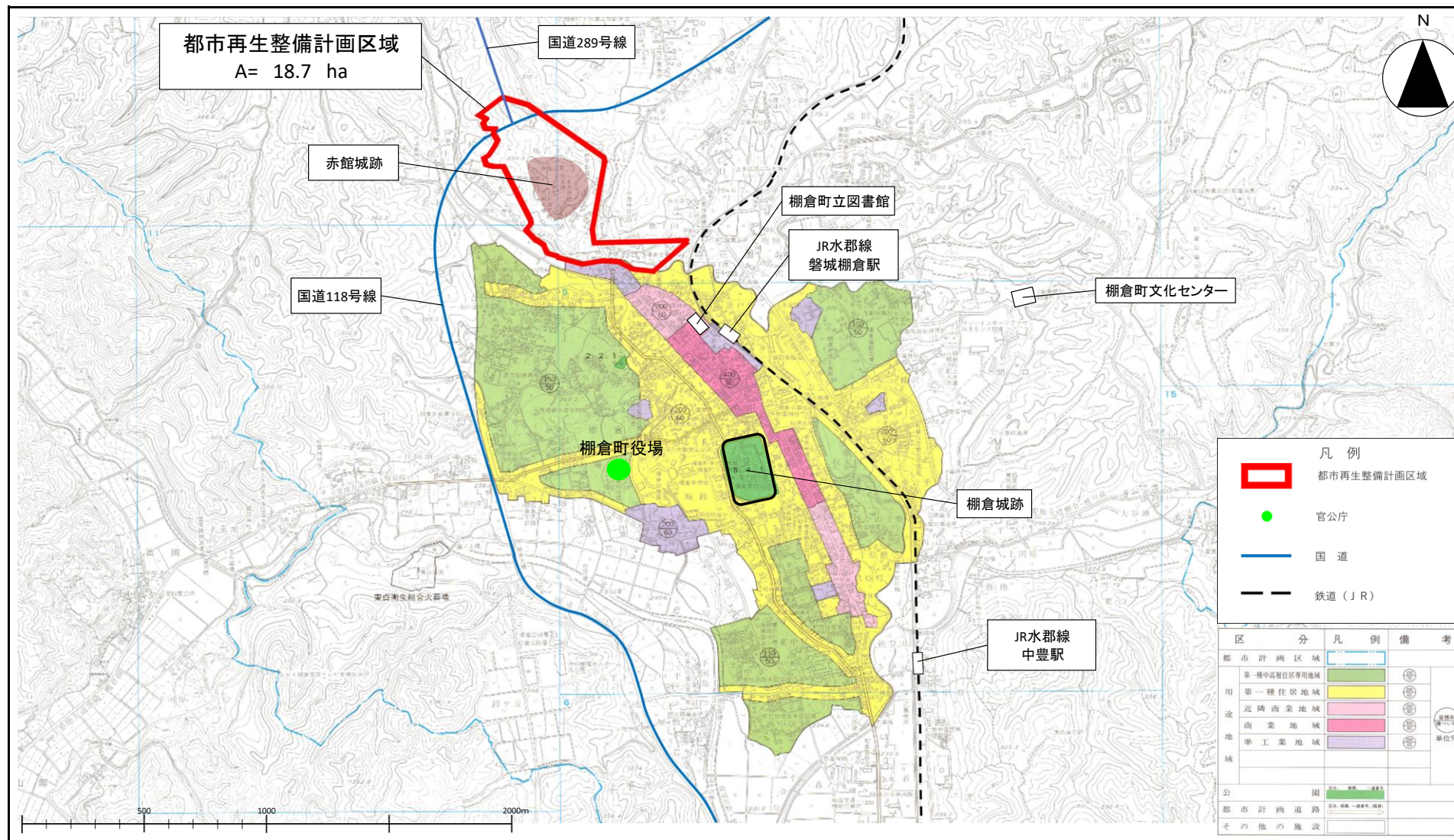
棚倉町歴史まちづくり重点地区(福島県棚倉町)

面積

18.7 ha

区域

字風呂ヶ沢の一部、大字花園字鹿子山の一部



棚倉町歴史まちづくり重点地区(福島県棚倉町) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金))

目標	大目標:町を代表する史跡周辺の交流拠点整備と周遊促進による地域の活性化 目標1:観光交流拠点の整備による利便性の向上と賑わいの創出 目標2:周遊性向上による交流人口の創出と地域経済の活性化 目標3:来訪者との交流による地域住民の郷土愛護の醸成と地域生活の質の向上	代表的な指標	赤館公園利用者数(人/7~10月)	559	(R7年度)	→	700	(R9年度)
			歴まちカード配布枚数(枚/年)	663	(R7年度)	→	800	(R9年度)
						→		

